

安中市新庁舎建設 基本設計 概要版

令和5（2023）年 3月



1.	設計コンセプト	01
2.	計画概要	02
3.	配置計画	03
4.	平面計画	04
5.	断面計画	05
6.	外観・立面計画	06
7.	内装計画	07
8.	環境配慮計画	08
9.	BCP 計画	09
10.	計画スケジュール表	10

1. 計画コンセプト

大きな方向性：既存庁舎を活かした機能的で「シンプル・コンパクト」なSDGs型庁舎

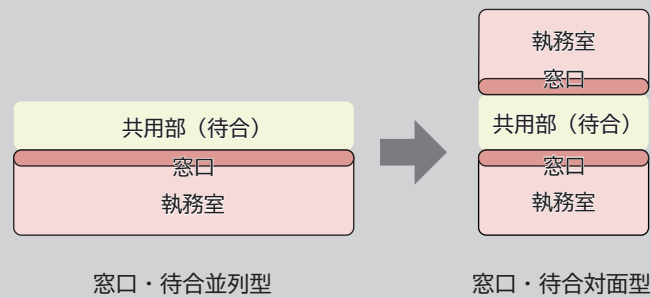
方向性①
 将来の財政負担の軽減が図れる
 シンプルでコンパクトな庁舎

方向性②
 使いやすい・わかりやすい・動かしやすい庁舎

方向性③
 人と環境にやさしいSDGs型庁舎

方向性④
 既存庁舎を活かした
 新しいまちづくりの核となる庁舎

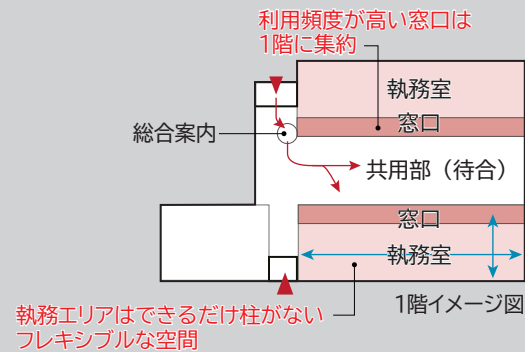
■ 対面型窓口配置による共用部面積の効率化
 ・共用部（待合）をはさんで執務空間を配置することで、共用部の面積を縮減します。窓口に対して共用部を並列で並べるよりも共用部の面積を縮減できます。



■ 空間の重ね使いによる面積の効率化
 ・議場については会議室等への利用も可能とし、市民利用にも対応します。
 ・会議室は市民利用も可能とします。
 ・市民利用が可能な諸室については休日利用もできるようセキュリティ計画にも配慮した配置構成とします。
 ・利用頻度が少ない諸室については、利用期間以外は会議室等で使えるようにし、面積の効率化を目指します。



■ フレキシビリティをもった執務空間
 ■ 窓口機能の集約化・動線の短縮化
 ・執務エリアはできるだけ柱を少なくし、レイアウトの自由度が高い空間とします。
 ・特に市民の利用頻度が高い窓口は、1階に集約します。
 ・窓口・待合対面型とすることで、わかりやすく視認性の良い窓口空間を形成し、動線の短縮化も図れます。



■ 市民の利便性向上：ウェルネスエリアの創出
 ・保健センターを体育館・格技場に近接して配置し、運動や予防・検診など、市民の健康づくりに貢献する施設をまとめ、ウェルネスエリアとして位置付けます。体育館や格技場を検診や予防接種の待機場所として活用する等、相互間利用により、機能の充実化を図ります。
 ・体育館・格技場の利用も活用できる憩いや休憩の場として、各施設の出入口に面した場所に広場を配置します。



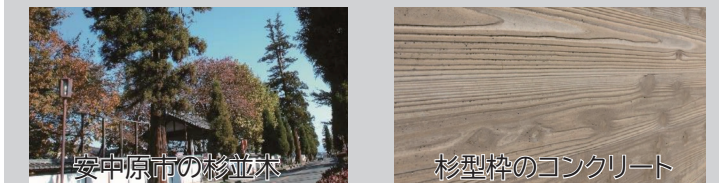
■ 市における環境配慮技術のリーディングプロジェクト
 ・安中の気候風土を活かした環境配慮技術を採用し、環境性能に優れた新庁舎を計画します。
 ・特に日照時間が長い地域特性を活かし、自然光を建物内へ取り入れ、明るく快適な庁舎となるよう計画します。
 ・国が掲げる脱炭素社会に向けた取り組みに呼応するため、一次エネルギー消費量を50%以上削減する「ZEB Ready」の達成を目指します。

安中市の気候風土	環境提案
光 豊富な日照 ・年間日照時間 2197時間	・自然採光・西日対策 ・太陽光発電
風 穏やかな風・からっ風 ・夏期中間期：日中南東風 1.5~2.0m/s ・冬期：山から吹き下ろす強風 夜間北西風最大 10m/s以上	・自然通風 ・エコポイド ・からっ風を避ける配置計画
地 高い地中熱ポテンシャル ・5万 GJ/年/Km ² 以上	・地中熱利用

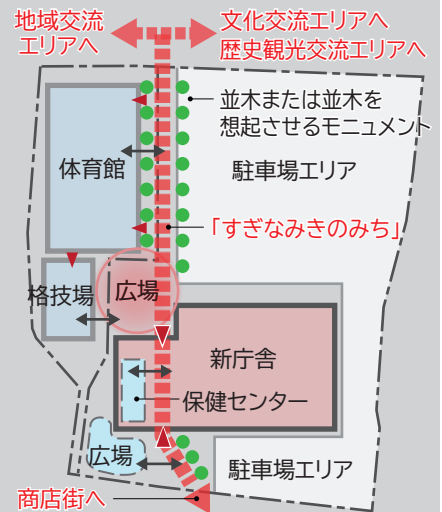


■ イベント対応が可能な駐車場・外構整備
 ・市の祭りやイベントに対応できるように、北側道路に面して駐車場を配置します。外構の歩行空間にはベンチや植栽などを配置し、イベント時でも活用できる外構計画を行います。

■ 安中らしさをもった計画
 ・安中にゆかりのある杉並木を想起させる並木道や、杉の型枠を使ったコンクリートなど、安中らしさにつながる外構や建築材料等を検討します。
 ・地震が少ない地域性もふまえながら、災害に強く安全・安心で建設コストにも有利な構造形式を提案します。



■ まちづくりに貢献：歩行空間「すぎなみきのみち」
 ・敷地南側には商店街が連なり、東側には文化交流エリアがあり、西側は地域交流エリアへと整備されることから、新庁舎の敷地には各エリアへのつながりを意識した安全な歩行空間「すぎなみきのみち」を整備します。
 ・「すぎなみきのみち」は体育館や格技場、新庁舎の出入口に面しており、それぞれの施設への安全な歩行動線も確保します。
 ・さらに「すぎなみきのみち」に隣接して、広場や新庁舎の共用使いができる機能を配置し、交流や賑わいの創出を図ります。



2. 計画概要

1. 計画地概要（新庁舎建設敷地）

所在地	群馬県安中市安中二丁目字町北2926番1ほか
敷地面積	約12,700 m ²
用途地域	第2種住居地域
防火地域等	指定なし
地域・地区等	建築基準法 第22条指定区域 埋蔵文化財包蔵地内
建蔽率	60%
容積率	200%
日影規制	5m:5時間、10m:3時間、測定面:GL+4.0m

2. 建築概要

- 旧安中高校跡地に新庁舎を建設する計画。旧安中高校の体育館・格技場は残置し、校舎・グラウンドエリアに新庁舎を計画します。
- 東側道路および南側道路については、新庁舎の建設と併せて、拡幅工事を実施します。
- 北側道路については、既存の幅員を確保した上で、建設敷地と歩道に挟まれた植栽帯部分を敷地の一部として整理し、歩道についても改修工事を実施します。

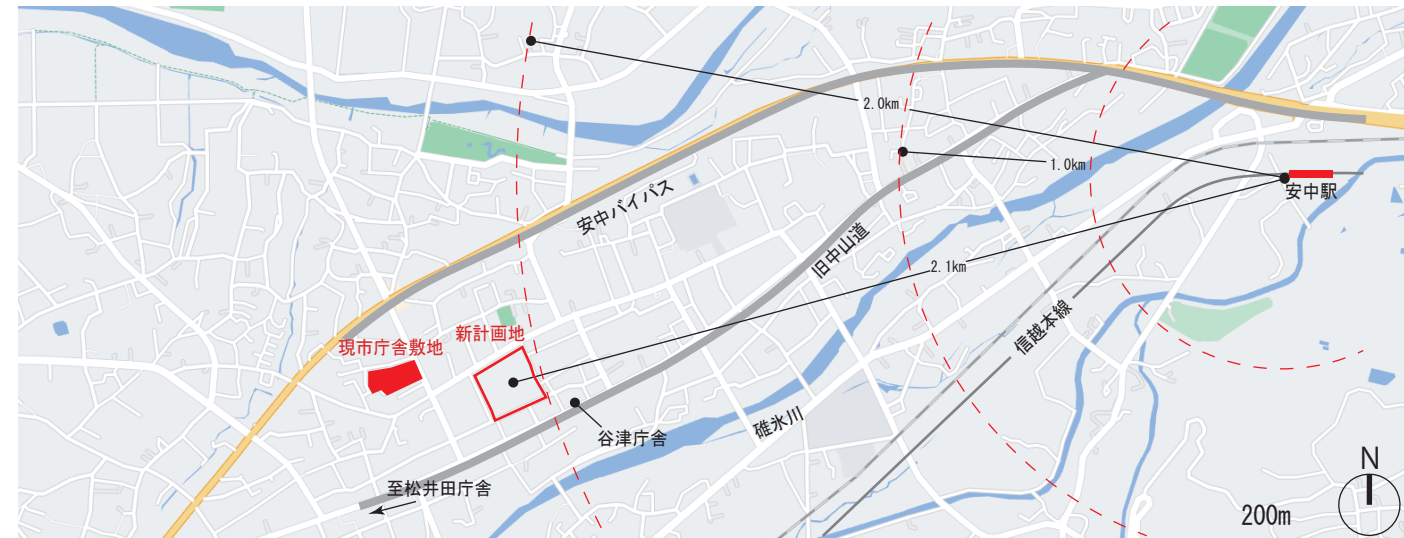


主用途	庁舎	
建築面積	3820m ²	庇・駐輪場・車庫含む
延床面積		
塔屋	28m ²	
3階	1354m ²	-
2階	2825m ²	-
1階	3072m ²	庇:350m ² 、車庫:65m ² 、駐輪場:30m ²
小計	7279m ²	445m ²
合計	7724m ²	

規模	地上3階
構造形式	鉄筋コンクリート造/耐震構造
建築物の高さ	19.10m
駐車台数	約160台
駐輪台数	未定

※上記は現時点での概要であり、実施設計により変更の可能性があります。

3. 案内図



4. 電気設備概要

電灯設備	LED照明器具、フル2線リモコンスイッチ、人感センサー等の採用
動力設備	受変電設備の配電盤2次側以降、各電源・制御盤設置、及び盤類へ至る配管・ケーブルの敷設
受変電設備	屋上に屋外型キュービクルを設置 変圧器の総容量1,400kVA
自家発電設備	防災電源・BCP対策として屋上に非常用発電機を設置 災害時72時間対応のため地下オイルタンクを計画
太陽光発電設備	2階屋上に太陽光10kWを計画
各種弱電設備	必要箇所に電話・情報・時計・呼出・テレビ設備を計画
映像・音響設備	会議を想定する室に映像・音響設備を設置
拡声設備	安全性に考慮し、業務放送と非常放送設備兼用
入退室管理設備	入退室の管理や室のセキュリティレベル設定を行うため入退室管理設備を計画
火災報知設備	消防法に準拠し、火災報知設備を計画
電気自動車用充電設備	駐車場に電気自動車の充電用として、急速充電器と普通充電器を設置
構内配電線路	建物南側に引込み柱を建て、電力会社より電力の架空引込み。2回線受電にて計画
構内通信線路	電力用引込み柱を共用し、通信会社より通信の架空引込み

5. 空調換気設備概要

熱源設備	空冷ヒートポンプチラー 地中熱利用ヒートポンプチラー
空調設備	天井チャンバー多孔吹出空調システム(1階執務室) 水冷媒天井放射空調システム(2階執務室) 空気式床輻射冷暖房システム(1階エントランス・待合) 単一ダクト空調システム(議場) 空冷ヒートポンプパッケージエアコン(天井カセット・天井ビルトイン)
換気設備	外気処理空調機(執務室、各室、共用部) 全熱交換器ユニット
排煙設備	自然排煙方式
中央監視	中央監視装置、BEMS、個別空調集中リモコン、自動制御設備

6. 給排水衛生設備概要

給水設備	上水:受水槽(屋外)+加圧給水ポンプユニット方式 雑用給水:雑用水槽(床下ピット)+加圧給水ポンプユニット方式
給湯設備	業務用エコキュート(密閉回路・給湯循環式) 小型貯湯式電気温水器
排水設備	屋内:汚水と雑排水の合流方式 雨水分流方式 屋外:汚水と雑排水の合流方式 雨水分流方式
衛生器具設備	節水型衛生器具
消火設備	屋内消火栓設備、不活性ガス消火設備、消火器

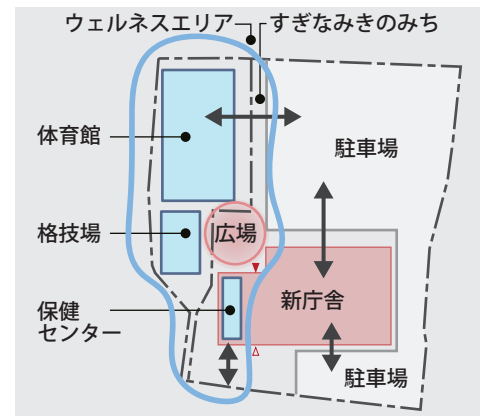
3. 配置計画

1. 基本方針

- ・新庁舎は旧安中高校跡地を活かし、敷地を最大限に有効利用できる配置計画とします。
- ・新庁舎の配置は敷地内に高低差があることからグラウンド側に配置し、駐車場エリアは緩やかな勾配とすることで高低差のないバリアフリーな計画とします。
- ・既存体育館および格技場との一体利用や連携ができるよう、新庁舎の配置計画を行います。
- ・駐車場や敷地全体の計画について、新庁舎や既存体育館および格技場の利用者にわかりやすく、安中らしさを持った外構計画とします。
- ・新庁舎がまちづくりの核となるよう、地域全体への連続性・回遊性に配慮した計画とします。

2. 市民の利便性向上を図るコンパクトな配置計画

- ・現在でも市民に利用され、親しみのある既存体育館と格技場を残置し、駐車場の相互利用など敷地全体で効率的な活用ができる配置計画とします。
- ・体育館、格技場に近接して保健センターを配置し、運動や予防・健診等の健康づくりに貢献する施設をまとめて配置し、ウェルネスエリアとして位置づけます。各施設の相互利用を促進し、機能の充実を図ります。
- ・体育館、格技場の利用後も活用できる憩いや休憩の場としての広場を計画します。



3. 安中の面影を感じる安心安全な歩行空間「すぎなみきのみち」

- ・車両動線と明確に分離された歩行空間を「すぎなみきのみち」として整備します。
- ・「すぎなみきのみち」は体育館や格技場、新庁舎の出入りに面しており、安全な歩行動線となります。
- ・安中市原市の旧中山道沿いに植えられた杉並木は 1844 年には 732 本あった杉の本数も現在は 13 本となっています。「すぎなみきのみち」では安中の面影を感じる工夫により、安中市の歴史を記憶として継承できる計画とします。

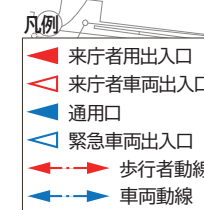
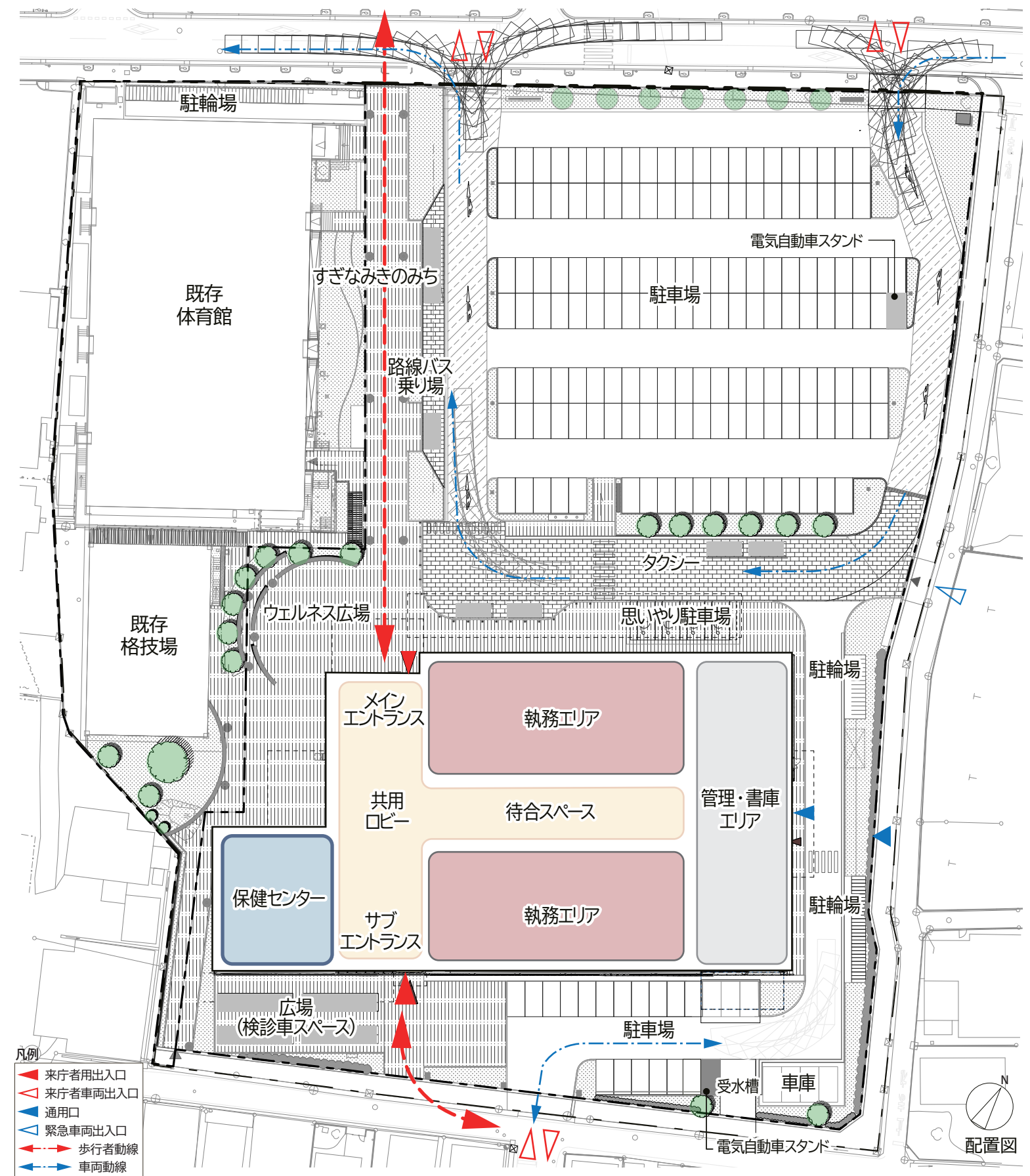


4. 周辺への配慮

- ・近隣の居住者に与える影響を考慮し、日影や圧迫感を抑えた計画とします。
- ・敷地東側と南側道路については拡幅工事を行うことで緊急車両も通るゆとりのある幅を確保します。

5. まちづくりの拠点（核）となる庁舎

- ・新庁舎を拠点に「歴史ある街並み」が見られるエリアや旧中山道沿いの商店街への連続性・回遊性が生まれる動線計画とします。
- ・「すぎなみきのみち」により敷地南側にある商店街や谷津庁舎へもつながり、まちづくりに貢献できる計画とします。



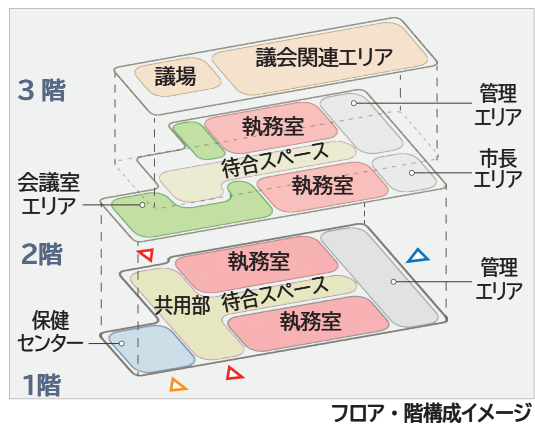
4. 平面計画

1. 基本方針

- ・シンプルでコンパクトな庁舎とするため、空間の重ね使いや機能的な動線計画により庁舎の床面積を抑えた経済的な計画とします。
- ・来庁者のだれもがわかりやすく使いやすいゾーニング計画とし、ユニバーサルデザインに配慮します。
- ・執務室や待合スペースについては、柱の本数が少なくオープンな空間とすることで、将来の変化にも対応できる柔軟性のある庁舎とします。
- ・セキュリティに配慮した平面計画とします。

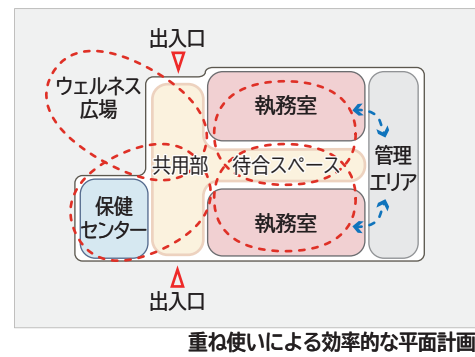
■ 明快なフロア構成

- ・シンプルなフロア構成とし、利用者にわかりやすく、利用しやすい庁舎とします。
- ・特に市民利用の頻度が高い窓口は、1階に集約します。



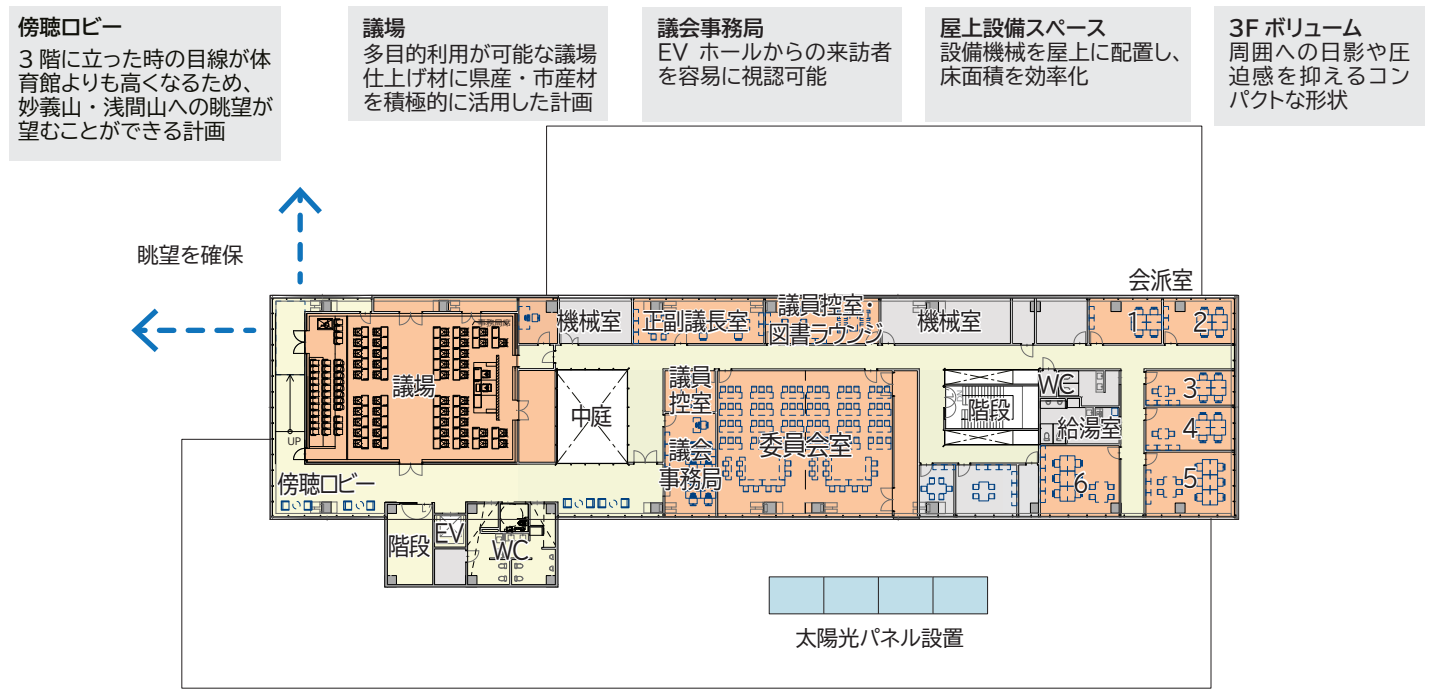
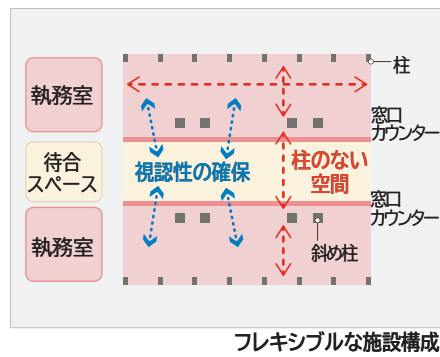
■ 重ね使いによる効率化

- ・窓口を対面型とすることで共用部の面積を縮減しながら利用者の動線を短縮化します。
- ・会議室を集約配置し、稼働率を考慮した規模とすることで効率的な配置を計画します。



■ 維持管理しやすい施設構成

- ・執務室エリアは柱の本数を少なくし、レイアウトの自由度が高い空間とします。
- ・自然換気や自然採光を積極的に取り入れ経済性に配慮した、明るく快適な庁舎とします。

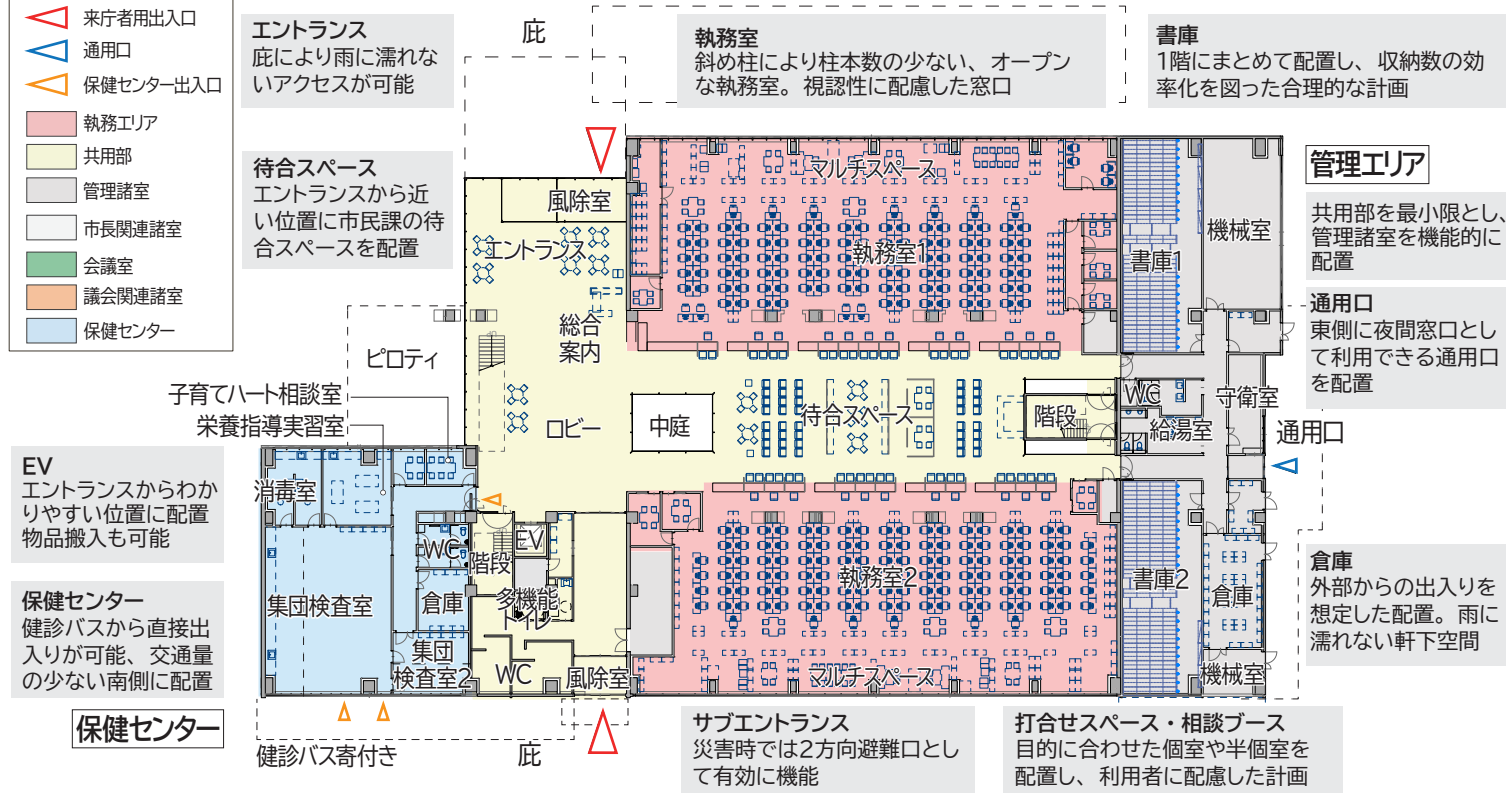


3階平面イメージ

- ・議会関連諸室を集約することでセキュリティ管理のしやすい構成
- ・議場は多目的利用を想定したフラット形式
- ・傍聴ロビーからは妙義山・浅間山への眺望がとれる計画

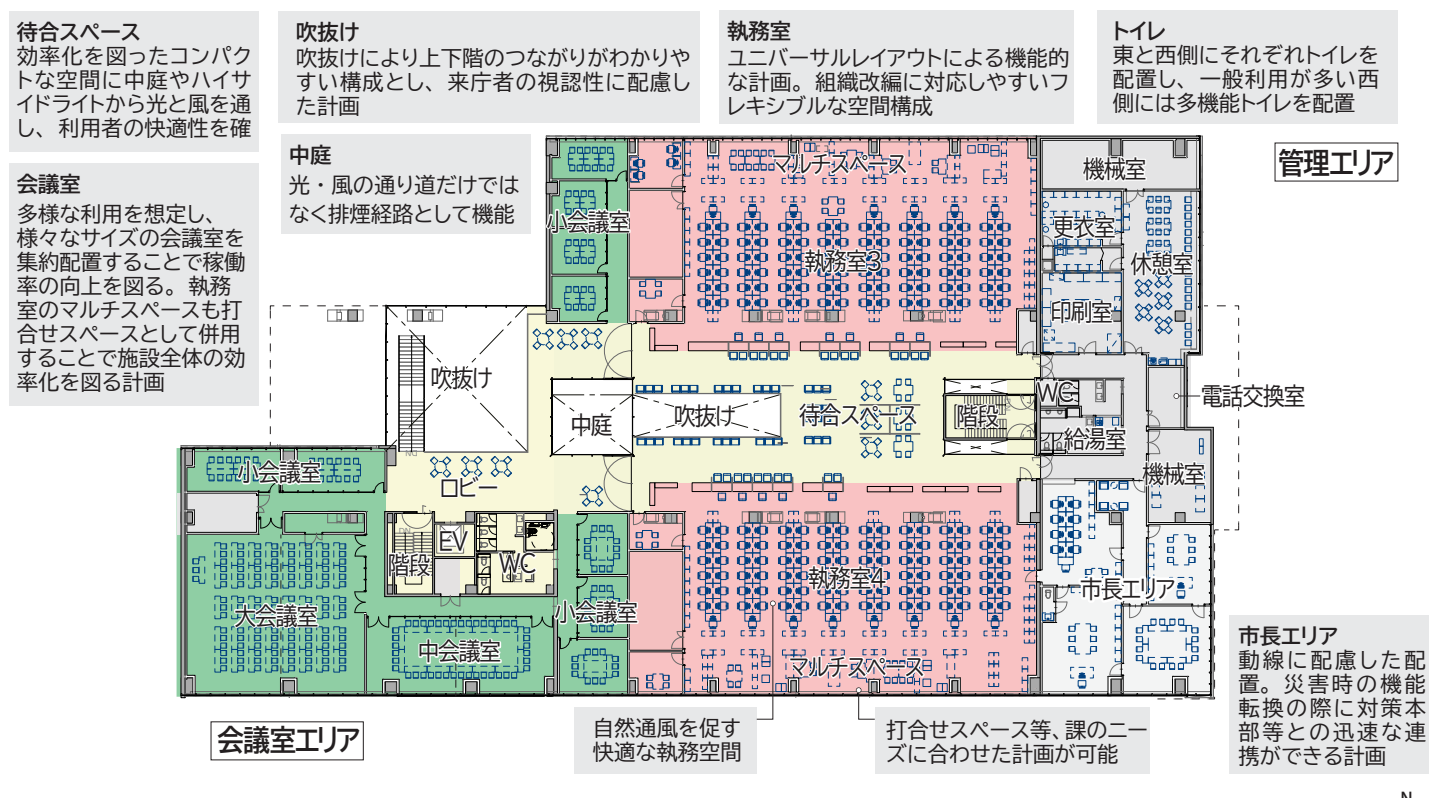
凡例

- △ 来庁者用出入口
- ▽ 通用口
- ◇ 保健センター出入口
- 執務エリア
- 共用部
- 管理諸室
- 市長関連諸室
- 会議室
- 議会関連諸室
- 保健センター



1階平面イメージ

- ・来庁者にわかりやすい位置にメインエントランスや総合案内を配置
- ・窓口エリアや保健センター、2階への動線がわかりやすいエントランスロビー
- ・共用口ロビーは期日前投票や診察時の待合スペースとして柔軟に重ね使いが可能



2階平面イメージ

- ・会議室を集約することで面積の効率化を図り、稼働率の向上につながる計画
- ・中庭やハイサイドライトからの自然採光により、明るい開放的な室内環境
- ・執務エリアは柱本数が少なく将来の組織改編にも柔軟に対応できる構成



scale1/600

5. 断面計画

1. 基本方針

① シンプルでコンパクトな断面構成

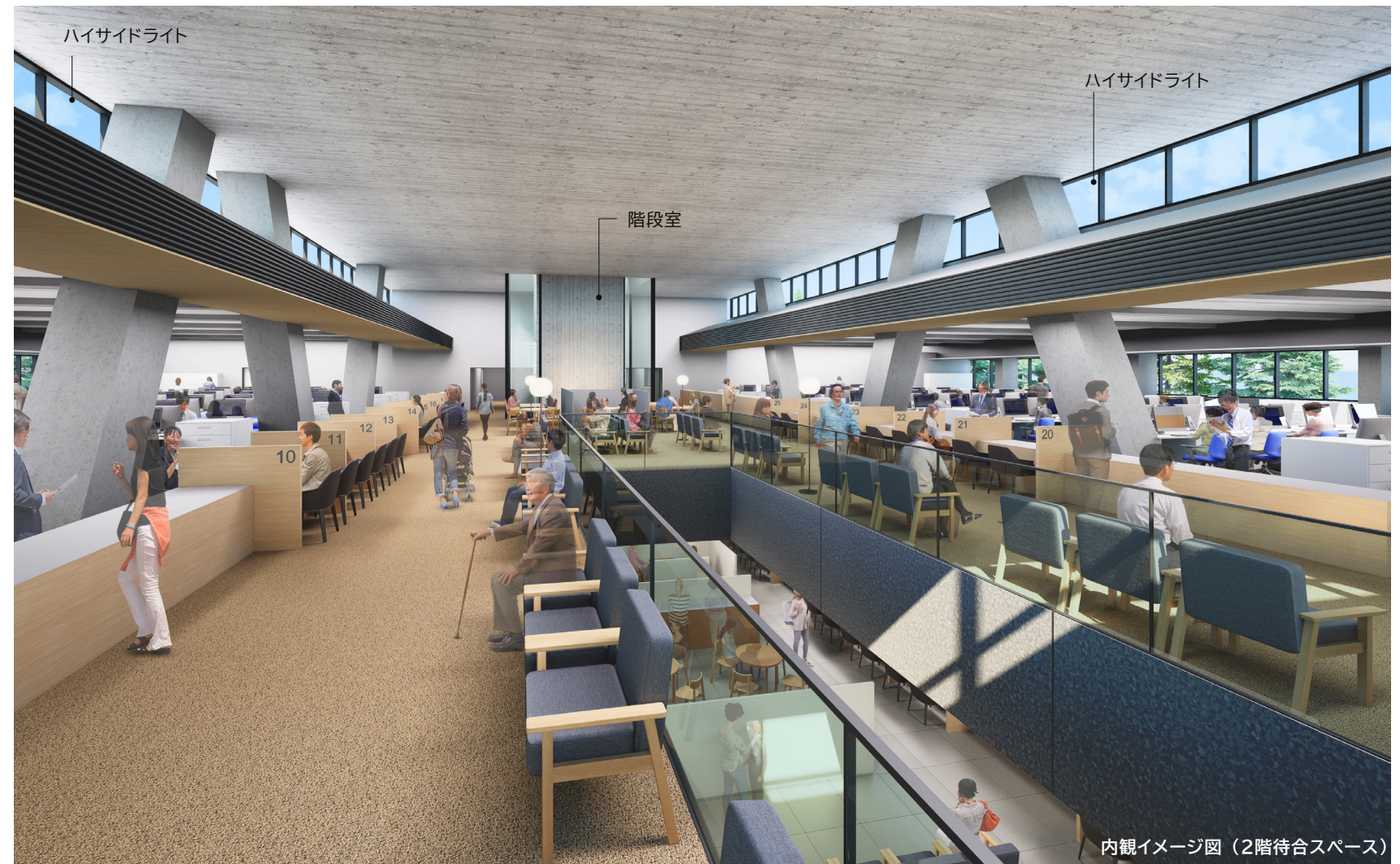
- ・1階には来庁者の利用が多い課を配置し利用者の利便性を第一に計画します。
- ・2階を執務エリアのフロア、3階を議会に関するフロアと明確にわけることでわかりやすい断面構成とします。
- ・2階には市長室や会議室を集約配置します。会議室は災害時には災害対策室やその他災害対応諸室に転換します。会議室・市長室・危機管理課といった諸室を同じフロアに配置することで災害時に迅速な機能転換と連携が可能となり、災害時の市の安全対策・対応に貢献できる計画となります。

② 安中市の気候を活用するための工夫

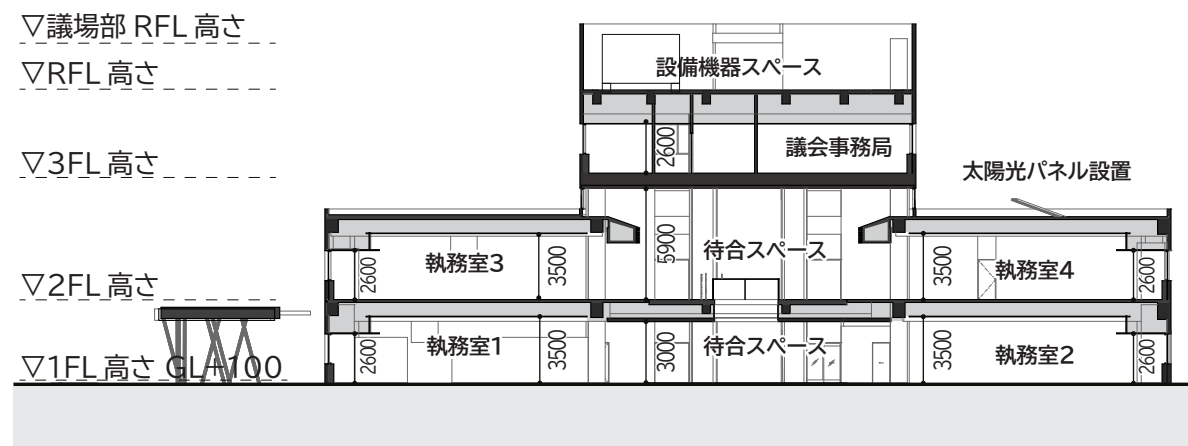
- ・夏期・中間期の穏やかな風や豊富な日照時間が得られる安中市の気候を活用した計画を検討します。
- ・中庭（エコガーデン）とハイサイドライトを設けることにより、建物中央部にも自然光や自然通風を促し、環境配慮に対応したSDGs型庁舎を計画します。

③ 構造と環境を統合したデザイン（環境に配慮した執務空間の実現）

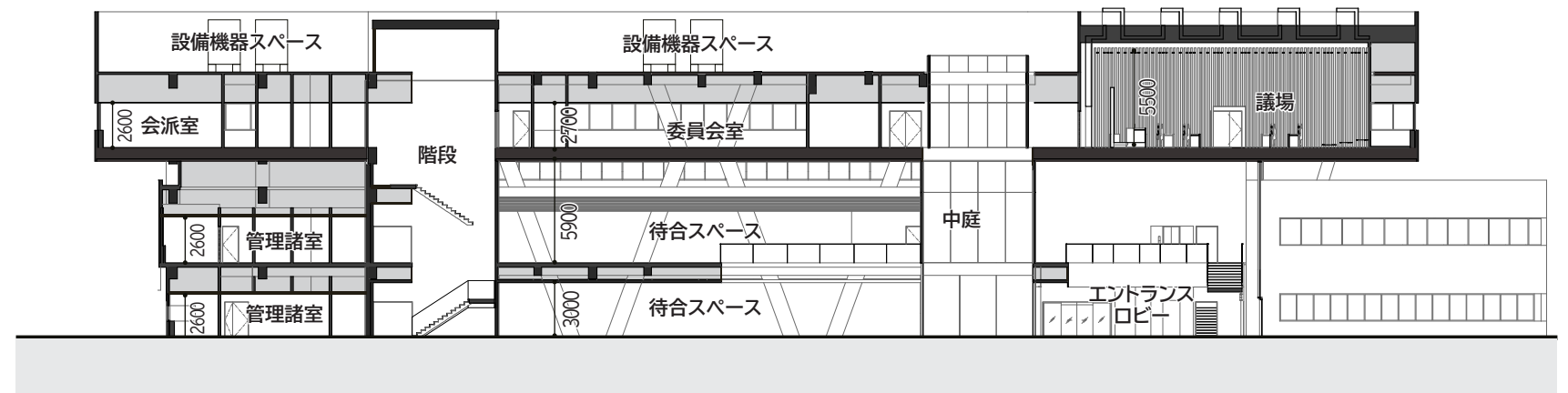
- ・合理的な構造形式と設備形式により4.4mの階高とします。



内観イメージ図（2階待合スペース）



南北断面図



東西断面図

6. 外観・立面計画

1. 外装計画基本方針

1. シンプルで端正な装い

- ・ 華美な装飾はせず、後付的な要素を極力削ぎ落としたシンプルな外観を目指します。
- ・ 来庁動線や構造形態、環境性能等の機能がそのまま外観をかたちづくり、新庁舎の特徴づけを行います。

2. 市民の心の支えとなるシンボル性と 安中らしさの佇まい

- ・ 構造体を活かしたダイナミックな外観形状と、「すぎなみきのみち」から建物への特徴的なアプローチ空間を計画します。

3. イニシャルコストと維持管理コストの 双方に配慮した材料の選定

- ・ 時間と共に醸成され、より市民に馴染んでいく設えとなる材料を選定します。



外観イメージ図（アイレバル）

7. 内装計画

CONCEPT

1. 内外を通じて安中らしさを感じる計画

■ 杉板型枠を活用したコンクリート打放仕上と内装材の木質化

- ・外壁と同様、コンクリート躯体を活かし、杉板型枠を使ったコンクリート打放仕上を内装にも用いて、内外を通じて連続性と一体感がある計画を目指します。
- ・市民利用が多いエントランス・待合・議場・傍聴ロビーには、杉板を内装材に用いて、来庁者が木の温もりを感じられる設えとします。
- ・木材は県産材や市産材の検討を行います。



2. 市民・職員を支える安全性と快適性

■ 構造体を活かした天井

- ・天井高さがある2階の天井部（1階吹き抜け部）については、吊天井をなくし、構造躯体をそのまま仕上として活用。天井材の崩落の危険性がない安全な天井を計画します。
- ・さらに2階天井部のハイサイドライトや中庭からは光と風を取り入れ、自然が感じられる快適な庁舎を目指します。また、災害時にも電気を使わずに光と風を取り入れることが可能となる計画です。



3. 維持管理がしやすい内装材計画

■ 構造躯体を活かした内装計画と適材適所の材料選定

- ・構造躯体となる部分は、極力、張りものをせず表面保護剤を塗布しながら、そのまま仕上材として活用することにより、コスト削減とメンテナンスに配慮した計画とします。
- ・耐久性や機能性を考慮して各諸室に応じた材料選定を行います。

<材料選定例>

タイルカーペット



多くの人が行き来する部分には耐候性に優れた「**原着ナイロン**」の採用を検討。防汚加工も施され、長く使い続けられる仕上材。

ビニル床シート



メンテナンスコストを下げる**ノンワックス性**の材料を選定。場所に適した抗菌性や消臭効果もある床シートを適材適所で選定。



1階 エントランス・待合・執務エリアのイメージ

■ エントランス・ロビー

- ・天井に杉材を用いて木質化を図ります。市民を迎え入れるエントランス空間に、木の温もりが感じられる計画を行います。
- ・構造躯体部についても杉型枠を用いて、安中らしさを表現します。
- ・中庭からは光・風が取り込まれ、自然を感じることができる豊かな空間を計画します。

■ 2階待合空間

- ・天井材を張らずに構造躯体を活かした仕上とし、コストやメンテナンス性に配慮しながら、地震時に天井材が落ちてくる心配のない安全性の高い計画です。
- ・ハイサイドライトからは光と風を取り込み快適性と省エネに優れた計画とします。ハイサイドライトと吹抜けにより、1階フロアの換気も促されます。



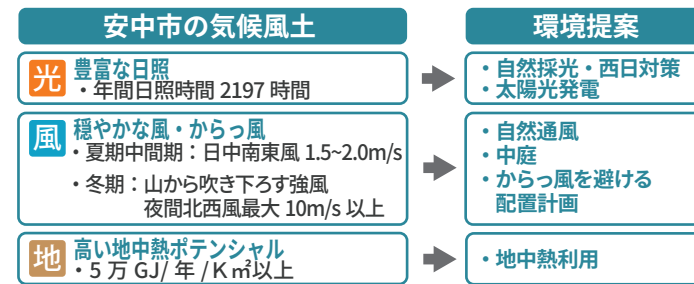
2階 待合・執務エリアのイメージ

8. 環境配慮計画

1. 基本方針

□気候風土を活かした環境にやさしい庁舎

- ・太陽の光と熱、風などの自然エネルギーの積極的な活用により、環境負荷の低減や省エネルギー化を図る環境にやさしい庁舎を計画します。
- ・省エネルギー、省資源に配慮した設備・機器の導入、エコマテリアル等の採用を検討します。
- ・日照時間や風等の特徴的な気候風土を活かした安中ならではの計画を行います。



□達成目標

- ・国が掲げる脱炭素社会に向けた取り組みに呼応するため、一次エネルギー消費量を 50%以上削減する「ZEB Ready」の達成を目指します。

□運用維持管理の容易な計画

- ・耐久性、清掃性、節水性に優れた器具を採用します。
- ・LED 照明など、高寿命・高耐久の機器・材料を採用します。
- ・メンテナンス動線、搬出入動線を確保し、将来の機能更新に対応しやすい計画とします。

2. 基本方針実現のために備える機能・設備の考え方

- ・SDGs型庁舎として様々なエコアイテムを取り入れながら、快適かつ災害にも強い庁舎を目指します。

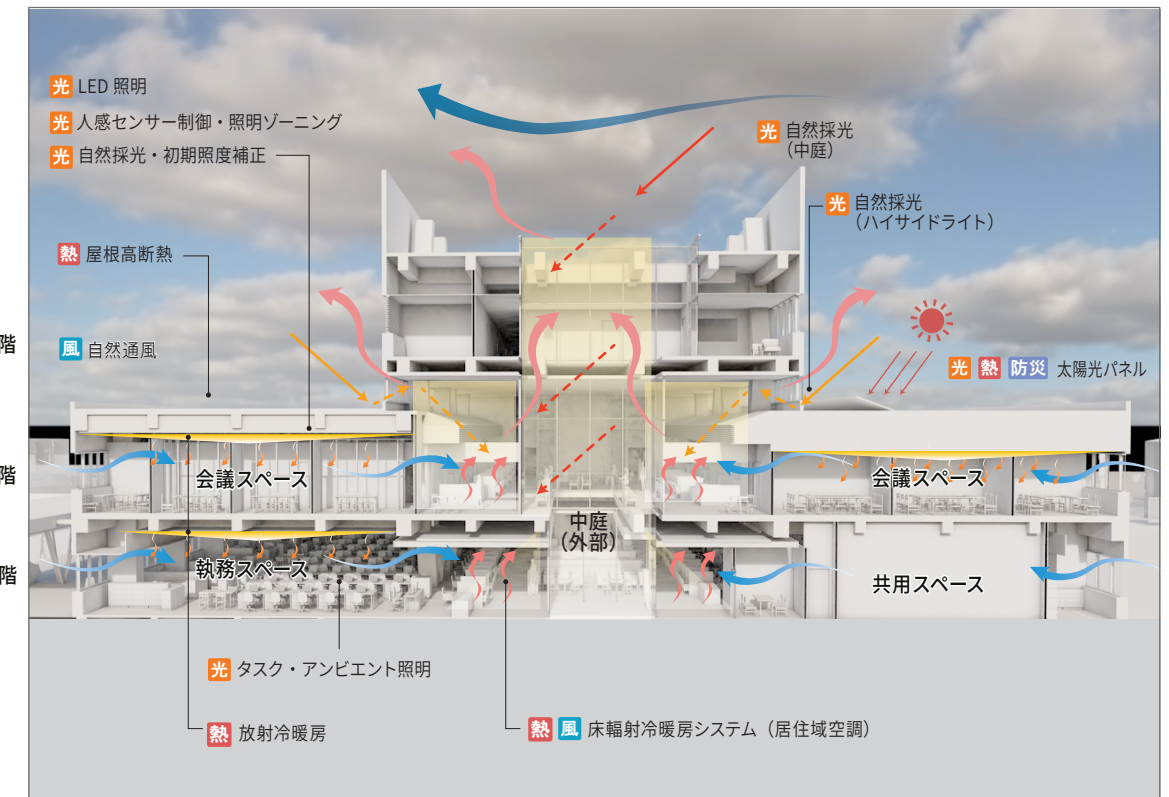
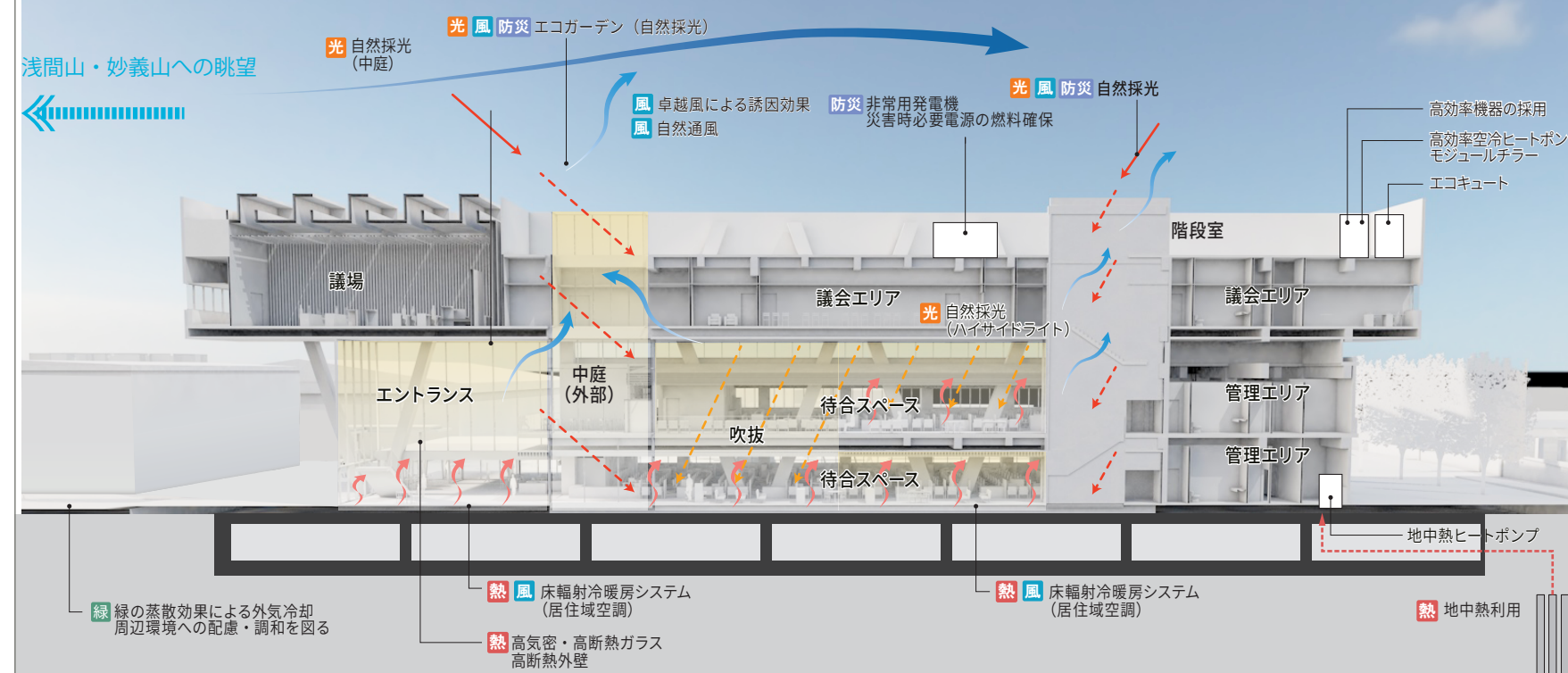
SDGsに配慮した庁舎	
3	訪れる人、働く人にも快適な環境
7	再生可能エネルギーの利用
11	災害に強いまちづくり
12	持続可能な素材
13	省エネ、省CO ₂



採用エコアイテムの一例

パッシブ	中庭（自然通風・自然採光）、ハイサイドライト（自然通風・自然採光） 卓越風の誘因効果による自然換気、外壁・床・ガラスの高断熱
再生可能エネルギー	太陽光パネル、地中熱ヒートポンプ
省エネ	放射冷暖房、タスクアンビエント、LED 照明・昼光・人感センサー 節水器具、床輻射冷暖房システム（居住域空調） CO ₂ 濃度による変風制御、外気冷房、高効率機器、全熱交換機、エコキュート ELV の可変電圧可変周波数制御、電力回生制御
運用改善	BEMS による見える化

環境配慮計画のイメージ（断面イメージ）



9. BCP 計画

1. 基本方針

- ・市民、職員の安全を守るため、建物の耐震性能を高め、「安中市業務継続計画 (BCP)」「安中市地域防災計画」との整合性を図り、災害発生時にも機能できるよう必要な構造・設備・施設計画を行います。
- ・隣接する指定避難所である安中体育館との連携も可能な計画とします。

2. 基本方針実現のために備える機能・設備の考え方

□耐震性の確保

- ・「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」に基づく「災害応急対策活動に必要な官庁施設のうち特に重要な官庁施設」と同程度の耐震安全性を確保する、構造体 I 類、非構造部材 A 類、建築設備甲類での計画とします。
- ・構造計画は剛性が高く、地震時の変形が少ない耐力壁付き耐震構造とします。
- ・地震時における強い揺れや、長周期地震動のような大きく長い揺れに対し、執務室などの空間においては、天井仕上材や設備機器の落下等の被害を最小限にとどめる計画とします。
- ・人命の安全を確保できるだけでなく、発災直後から災害対策活動を行うことができる計画とします。

□災害時の機能維持

- ・電力 : 2 回線受電 (異変電所) とし、電源確保の信頼性が高いシステムとします。
太陽光パネルで電力の確保を図ります。
- ・発電機 : 災害時にも必要な機能を自力で 72 時間維持できる計画とします。
- ・給排水 : 災害時に飲料水及び雑用水を 7 日間 (災害活動従事者が対象) 確保できるよう上水受水槽・雑用水槽等を設置します。非常用排水槽を設置し、トイレ洗浄等の排水に 7 日間対応します。
- ・備蓄 : 災害対策活動に当たる職員のための食糧や毛布等を備蓄する倉庫を設けます。
- ・通信 : 電話回線、防災無線などの通信経路の多重化が行える計画とします。
- ・空調 : 災害対応関連諸室の空調・換気設備を非常電源回路とします。

□災害発生時における機能

- ・災害対策本部室 : 関係機関と連携した円滑な災害対策活動や情報の収集、共有及び発信を行う応急体制の要となる「災害対策本部室」を 2 階大会議室を利用して設置します。災害対策本部室には、映像・音響設備等を設置するほか、市長室や危機管理課と同フロアの 2 階に配置し、機能転換や連携が円滑に行える計画とします。
- ・災害対応関連諸室 : 災害時に必要な機能として下記の諸室を 2 階会議室等を利用して転用できるように計画します。危機管理課、災害対策本部室と同フロアにすることで、機能転換や連携が円滑に行える計画とします。
「災害対応コールセンター」「本部会議室」「休憩室・仮眠室」「リエゾン等控室」「記者会見室」
また、防災備蓄庫、防災機器室も 2 階に配置し、機能連携が行いやすい計画とします。
- ・駐車場 : 新庁舎駐車場は隣接する指定避難所である安中体育館との連携も可能な計画とします。緊急車両駐車スペースや物資受入スペースに活用できる計画です。

